

混合系加硫促進剤について

(5)

混合系加硫促進剤ノクセラー Mix No. 1・ノクセラー Mix No. 2・ノクセラー Mix No. 3 および比較試料 A, B, C の天然ゴム炭カル配合による加硫試験に続き、今回は SBR 配合による加硫試験の結果を報告致します。

(試験条件)

加硫温度 150°C

引張試験は JISK 6301-1962 に準じた。

実験データ

供試試料

- |                     |          |
|---------------------|----------|
| (1) ノクセラー Mix No. 1 | (4) 試料 A |
| (2) ノクセラー Mix No. 2 | (5) 試料 B |
| (3) ノクセラー Mix No. 3 | (6) 試料 C |

実験 5 SBR 配合による加硫試験

(配合) 実験 3 の (配合 3) に同じ:

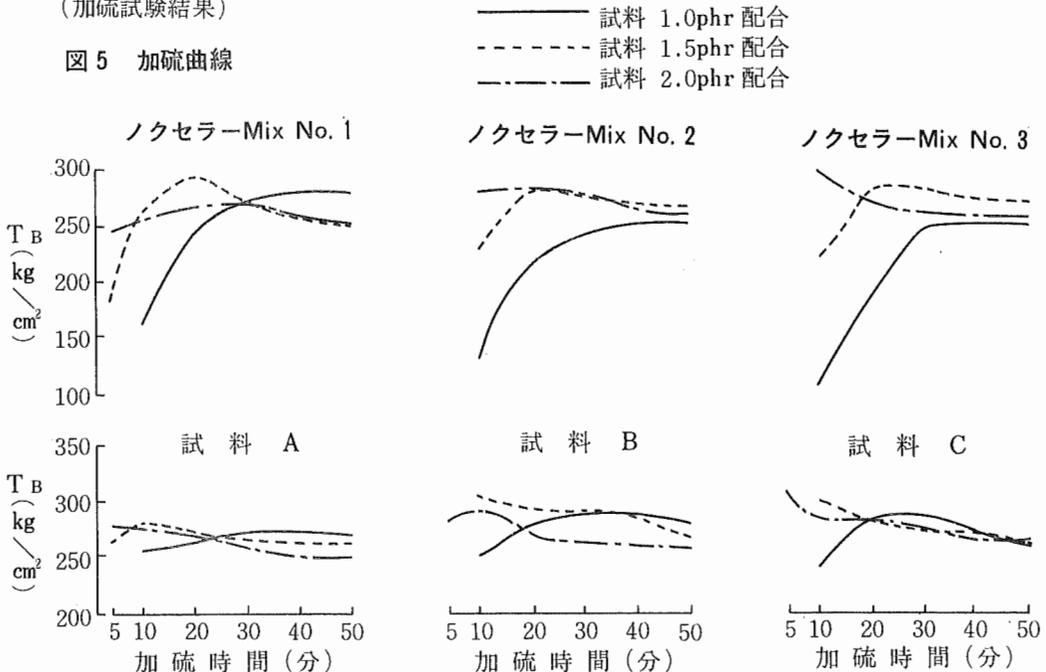
SBR (JSR) 1502	100
亜鉛華	5
ステアリン酸	1
イオウ	2
ジエチレングリコール	3
デキシークレ	20
ニブシル VN <sub>3</sub>	30
試料 (促進剤)	1.0, 1.5, 2.0

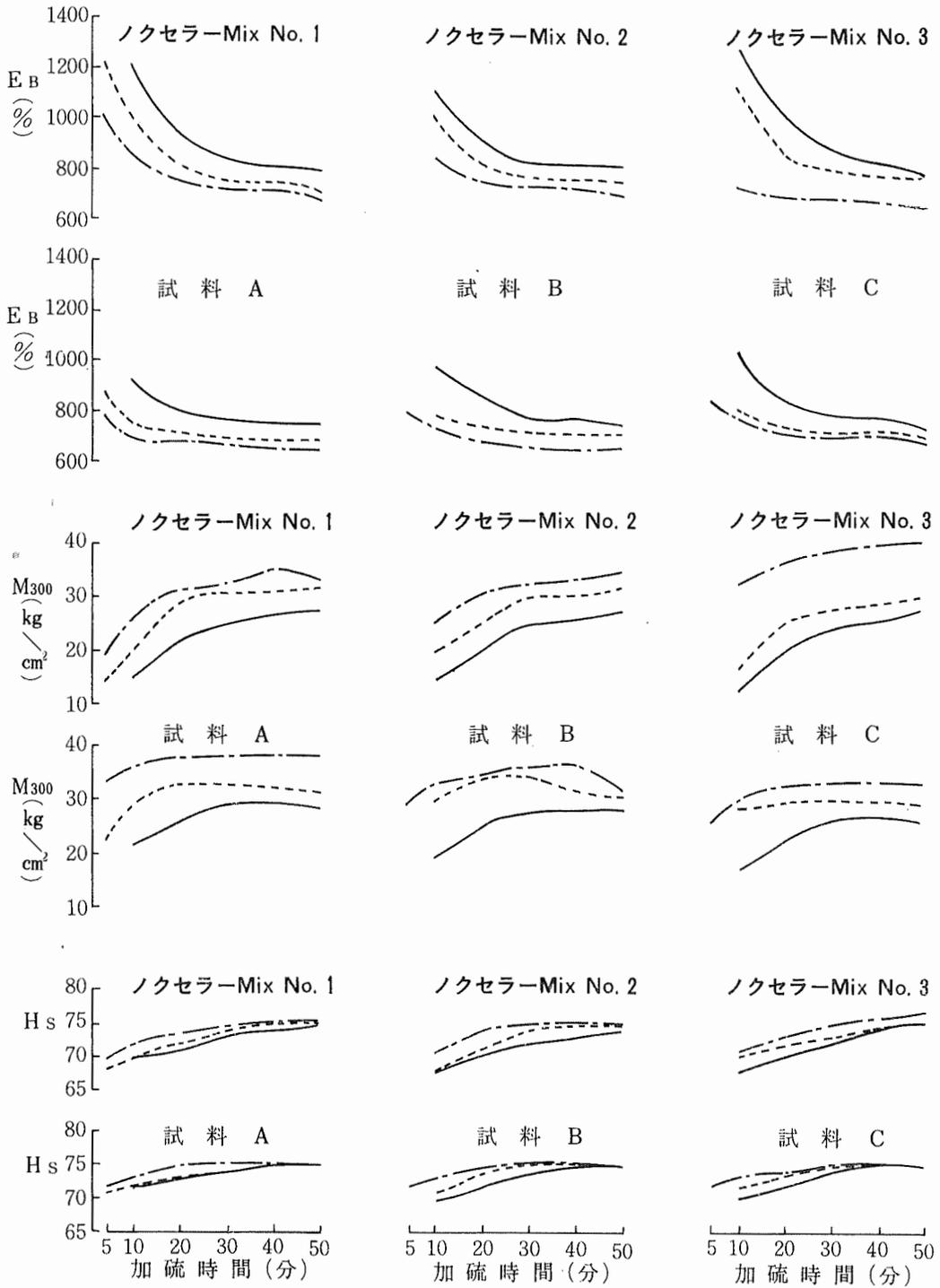
SBR 配合における加硫試験の結果は図 5 に示すとおりである。

各試料の同一配合量における加硫の速さを比較した場合、ノクセラー H を含むグループ (ノクセラー Mix No. 1・ノクセラー Mix No. 3) とノクセラー D を含むグループ (試料 A, B, C) の間ではかなりの差が認められるが、同一グループ間ではムーニースコーチ試験の結果ほど明瞭な差は認められない。むしろ同一グループ内で比較した場合には試料配合量の違いによる差の方が顕著である。いずれの場合も試料配合量が増加すると、加硫速度が速くなると同時に硬さ、引張応力が大きくなり、伸びが小さくなる傾向にある。引張強さには一定の傾向は認められない。

(加硫試験結果)

図 5 加硫曲線





大内新興化学工業株式会社